

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和 7 年 6 月 5 日（木） 13 時 30 分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・ 動画教材を活用した子どもの自死予防に取り組みます
- ・ 令和 7 年度「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」の作品を募集しています！

質疑事項

- ・ 熊野古道八鬼山付近のごみ処理場について
- ・ カモシカが出現した場合の対応について
- ・ 令和 8 年度三重県立高等学校募集定員総数の公表について
- ・ 伊賀市長による体罰の処分に係る申入れについて

発表項目

○ 動画教材を活用した子どもの自死予防に取り組みます

近年、児童生徒の自死の数が増加傾向にあります。令和 6 年中における全国の小中高生の自死者数は 529 人で、統計を取り始めた昭和 55 年以降で最多になっています。三重県教育委員会では、子どもの自死予防に向けて、教育相談体制の充実や命を大切にする教育の推進を図っているところですが、さらなる対策としまして、中高生、教職員、保護者向けの 3 種類の動画教材を作成し、子どもの自死予防に取り組むことといたしました。具体的には、学校における自死予防教育の目標が、「自他の心の危機に気づく力」と「相談する力」を身につけることの 2 点であることをふまえて、三重県立こころの医療センターの監修のもと、中高生、教職員、保護者のそれぞれが自死予防について学ぶことができる動画の内容となっています。まず、中高生向けの授業用動画ですが、悩みを抱えたときに身近な大人に SOS を出すこと、友人の SOS に気づいたときに大人につなぐことを学ぶものです。動画のシーンをもとに生徒同士が意見交換し、理解を深められる構成となっています。2 つ目の教職員向け研修動画につきましては、子どもの SOS に気づく感度を高め、また、関係機関と連携した対応を学ぶものです。教職員がねらいに沿った授業ができるように、授業用指導書やワークシート等も提供いたします。3 つ目の保護者向け啓発動画は、子どもの悩みについて知ることや、SOS に気づいたときに、学校や医療機関等に相談することを学ぶものとなっています。ホームページから、補助資料もダウンロードできるようになっています。公開時期は 7 月初旬を予定しています。自死は夏休み明けに増加する傾向がございますので、何としても夏休み前には公開したいと考えているところです。なお、この動画教材は、三重県の子どもや学校関係者だけでなく、どなたでも視聴できます。子どもの自死予

防にぜひご活用いただければと思います。それでは、この動画教材について、1 分間の告知動画を作りましたので、ぜひご覧ください。

○ 令和 7 年度「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」の作品を募集しています！

県教育委員会では現在、「早寝早起き朝ご飯」に欠かせない朝食のメニューを子どもたち自身が考えるコンクール、「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」の応募作品を募集しています。こちらの画面をご覧ください。この折れ線グラフは、三重県および全国の小中学生の朝食摂取率の推移を示すものです。オレンジ系が小学生、緑系が中学生を表しています。色の濃い方が三重県です。薄い方が全国状況です。ご覧のとおり、ここ数年子どもたちの朝食摂取率は三重県、全国とも下がる傾向にあります。ただ、令和 6 年度を見ていただきますと、三重県の小学生の数値は 93.5%と、下落が止まり、横ばいとなったことが確認できます。それから中学生の方も 91.6%と、ここは下落が止まり、上昇に転じた状況がございます。そこで三重県教育委員会では、今こそ、子どもたちが自らの食生活に関心を持つ絶好の機会であると捉えまして、今年度のコンクールに力を入れていきたいというふうに思っています。では、コンクールの概要についてです。まず、募集内容ですが、地場産物を使い 1 人で作ることができる朝食メニューを公募します。募集期間は 5 月 20 日から 9 月 2 日までです。募集の対象は、三重県内の学校に通う小学 5・6 年生から中学 3 年生、特別支援学校小学部 5・6 年生から中学部 3 年生までの児童生徒です。審査方法は、審査委員会による書類審査です。これまでは調理審査もありましたが、コロナ禍によって中断いたしまして、それ以降は書類審査での選考を継続しています。表彰等についてですが、優秀賞、優良賞、努力賞を選定します。優秀賞受賞作品は、ウェブサイトでレシピを公開いたします。また、皆さんに参加賞がございます。応募方法は、デジタル、アナログどちらでも OK です。なお、昨年度の応募総数は 3,888 件でした。今年度は 5,000 件以上の公募を目指しておりますので、周知等にぜひご協力いただければ幸いです。

発表項目に関する質疑

○ 動画教材を活用した子どもの自死予防に取り組みます

(質) 動画教材を活用した子どもの自死予防について、全国の小中高生の自死者数が 529 人と紹介していただきました。三重県の数があれば。

(答) これまでは都道府県別の人数が公表されてませんでしたけれども、令和 7 年 3 月から公表されておまして、令和 6 年中における三重県の小中高生の自死者数は 8 人です。

(質) 小中高生で 8 人ですか。

(答) はい。8 人です。

(質) この動画教材を教育委員会が用意するという取組は過去にあったのですか。

(答) これは初めての取組です。

- (質) 令和6年中の三重県における自死者数が小中高生で8人。これは公立だけという考え方なのですか。それとも私立も含めてですか。
- (答 生徒指導課) これは、発表元が、厚生労働省および警察庁ですので、公私合わせてと考えていただければと思います。
- (質) こういう動画教材を作るというのは、全国的に珍しいのか、他県でもされているのだろうかという点と、あと予算も教えていただきたい。
- (答 生徒指導課) 全国的にも珍しいと思いますが、東京都が先進的に取り組んでいますので、初めてではないです。あと、予算は昨年度12月補正予算で10,186,000円です。
- (質) これはどのような場所で活用していくということになりますか。
- (答) 授業用教材ですので、授業で活用いたします。
- (質) どんな授業になるのですか。総合学習ですか。
- (答 生徒指導課) 例えばロングホームルーム、特別活動、保健体育といった命のことについて学ぶ教科もありますので、そういったところでの活用が考えられます。
- (質) 教科は限定していないということですか。
- (答) そうですね。
- (質) 中高生向けと教職員向けがありますが、小学生向けというのはあえて作らなかったのですか。
- (答) 実際に、自死の小中高別の内訳を見ると、小学生は非常に少ないですので、今回は中高生を対象としたものを作りました。
- (質) 本県自死者数8名について、小中高の内訳はありますか。
- (答) 実際、校種別の人数、男女別の人数が3人以上の場合だけが公表されていまして、先ほど申し上げた8人のうち、高校生男子4人ということだけが公表されています。あとは公表されていません。
- (質) 夏休み明けに自死が増えるということで、それまでにということだと思うのですが、もし授業で使うとすると、7月初旬に公開して、7月中の授業で活用してもらうのが望ましいということですか。
- (答 生徒指導課) 年間で自死者数が増える時期が、長期休業明けということなので、それに間に合わせるように作ったのですが、活用については、年間を通して学校の実情に応じて使っていただければというふうに思っています。
- (答) 夏休み前は、特別活動という時間もございますので、そこで使っていただくことができますし、自分で振り返っていただくこともできますので、できるだけ早めに出したいと思っています。
- (質) 動画を使うことでどのようなことが期待されますか。
- (答) 自死の原因というのが、孤立とか孤独とかだと言われておりまして、私たちとしては、子どもや保護者を決して孤立、孤独な状況に陥らせないということで、今回の動画は、自らSOSを出すことや友達のSOSを大人に伝えるということを学べるようにして

います。ぜひ、孤立、孤独を防ぎ、自死に至ることを防いでまいりたいと考えております。

○ 令和7年度「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」の作品を募集しています！

(質) コンクールそのものではないのですけれども、先ほど見せていただいた朝食を取っている児童生徒の割合ですが、下げ止まったのかどうかはもう少し見ないとわからない面もあるかとは思いつつ、下げ止まりや少し上昇傾向になっているというのは何か要因で考えられることはありますか。

(答) そもそもどうして最近下がってきているのか、なかなか要因等はわからないところまでございまして、我々が予想しているのは、ひょっとしたらゲームをする時間等が増え、寝るのが遅くなって朝起きられなくなっているのではないかという予想はしてるのですけれども、確たるものとしてお話しすることはできないと思っています。少し横ばいなり上昇しているというのは、我々の取組の成果もひょっとしたらあるのかもしれないと思っていますけれども、しっかり見据えてまいりたいと思います。

その他の項目に関する質疑

○ 熊野古道八鬼山付近のごみ処理場について

(質) 文化財関係で、熊野古道の八鬼山の近くのごみ処理場の建設計画がある話なのですが、改めて先日の審議会の提言をどのように受け止めていらっしゃるでしょうか。

(答) まず今回、専門委員会の意見を求めたのが建設直前になってしまったことについては大変反省すべきと考えております。ただ、今回専門委員会からいただいた、施設の色を周囲の景観に合わせて濃い色調にすべきですとか、植栽の種類を周囲の樹木と合わせたものにしてほしいという話は、一定対応が可能であろうと思いますし、我々の今の対策が一定妥当だと認識されたというふうに考えております。

(質) そのうえで今回、縦割り行政という乱暴かもしれませんが、計画の認知が遅れたということについてどのような原因があって、どのような反省をしなければならないとお考えですか。

(答) 毎年市町に対しては、遺産影響評価というのですけれども、その必要性の周知はしておりましたが、ただこの遺産影響評価は、文化財法令の対象外であるということとか、日本では非常に珍しいということもあって、市町や関係機関に十分に浸透していなかったのかなと思っています。今回尾鷲市からの報告が遅れてしまって、我々の対応も遅れてしまったのですけれども、今後こういったことのないよう、しっかり市町に周知をいたしまして、我々も把握に努めて、こういう遅れがないようにしたいと考えています。

(質) 遺産影響評価、一定妥当というふうにおっしゃいましたが、一方で座長の先生は、もう少し早く知っていれば、もう少し形とか、計画そのものに、関与できたのではないかといい言っています。また、塔の高さが60メートルぐらいですかね、かなり近

いところで60メートルの塔が建つということで、色等でごまかしきれぬのかみたいなところもあると思うのですけれども。

(答) そういう危惧があるのは事実ですけれども、最大限の努力はさせていただく必要があるのかなと思っております。このように遅くなってしまったこと自体は、本当に反省すべき点だと思っています。今後はこのようなことがないように徹底してまいりたいと思います。

(質) これに関して、まだ提言が先週の日曜日で、時間が経っていませんけれども、具体的にどのような点を改善したら、同じようなことが起こらないというふうにお考えですか。

(答 社会教育・文化財保護課) 今後とも県内の各関係機関等でそういった情報が入るような調整を進めていきたいということと、世界遺産周辺の開発等についても市町の方で情報収集の取組を進めていただき、協議しながら進めていきたいと思っています。

(答) 市町への浸透をしっかりと図ることがやっぱり重要かなと思います。県全体でなかなか全部把握できませんので、その市町との連携をしっかりと取ってきたいというふうに思います。

(質) やり方としては少し違うかもしれませんが、教育委員会の職員の方とか、熊野古道を歩かれたりすると思いますし、ある程度、目視確認といいますか、変な言い方ですけれども、見たらわかるのではないかとということもあると思うのですけれど、その辺で、何らかのキャッチを増やしていくということはできないのですか。

(答 社会教育・文化財保護課) これからの開発ということでございますので、目視での確認というよりも、これから上がってくる開発計画というところになってきますので、開発部門との協力が不可欠になります。今回、文化財関係の法整備がされているものではありませんけれども、日本は世界遺産条約を批准しておりますので、そういった重要性を、所管している各市町に十分説明をして、関係機関と調整していくようお願いをしているところでございます。

○ カモシカが出現した場合の対応について

(質) 名古屋でカモシカが出たので、その関連ですが、文化庁で三重県内のカモシカ保護地域を鈴鹿山地と紀伊山地の2か所を設定しており、県教委も広報に向けていろいろ活動をされていると思うのですけれども、今回のように、例えば県内の市街地にカモシカが現れた場合に、県教委として、保護や捕獲といった対応あるいは手続きに時間がかかるとなったら、周辺の市民などに影響が及ぶ可能性も否定できないと思うのですけれど。

(答 社会教育・文化財保護課) カモシカにつきましては、天然記念物でございますので、見守るとというのが基本となっておりますけれども、今回のようにカモシカが都市部に出現し、自力で帰還できない事態となった場合、周辺住民が危険等にさらされる可能性

もございますし、天然記念物自身が危険にさらされるという事態もございますので、捕獲等のしかるべき安全な解決方法について判断すべき場合があるだろうと考えております。

(質) 今回の事案のこともあるのですけれども、手続き等に時間がかかるという状況になったときに、住民の方の誘導や、時間を稼ぐということも出てくるのではないかと思いますのですけれども。

(答 社会教育・文化財保護課) 以前にも、松阪市でカモシカが住宅に出現する状況となったときに、周辺住民が避難という対応もございましたし、麻酔銃等を使うのにも、使える人が限られるといったことがございます。それが整うまでは、安全を確保するための措置というのは必要になろうかと考えております。

○ 令和8年度三重県立高等学校募集定員総数の公表について

(質) 本日の教育委員会定例会で、県立高等学校募集定員総数の策定についてという議題が上がってるのですけれども、結果はどうでしたか。

(答) これは実際に審議も非公開であったのですけれども、数字に関しては、6月の常任委員会に報告させていただいて、議会のご意見をいただいた後に公表するというところで考えておりまして、それまでは申し上げることができませんのでご理解ください。

○ 伊賀市長による体罰の処分に係る申入れについて

(質) 伊賀市長から、体罰の処分が甘いと、再発防止それから原因究明を求める申入れを県教委に行くと市長会見で表明がありまして、県教委においても一定情報が伝わっていると思うのですけれども、まず、こういった意見があったことに対してどのように受け止められていますか。

(答) こういうことは異例ですので、びっくりしましたが、県民の皆様からそういう意見が一定あるというのは承知しております。しかも、稲森市長からは県議会議員の時代に、体罰に関して非常に厳しいご意見をいただいておりますので、こういったご意見をお持ちであることは承知しました。来ていただくということになれば、我々が基準に沿って処分をしているということとか、他の自治体と比べて決して軽い処分ではないということなどを説明させていただこうかと思っています。また、来ていただく稲森市長自身が任命権者でいらっしゃいますので、処分する立場に今後なるでありましょうから、再発防止に関していろいろご意見があるということであれば、稲森市長ご自身のアイデアとかそういうことも聞ければと思っています。我々としては今回の件に関して来ていただけるということであれば、それを決してマイナスに捉えるのではなくて、次のプラスのエネルギーに変えていけるようにしたいと考えています。

(質) 市長自身も任命権者というご発言ですけど、今回の事案というわけではなく、例えば小中学校ということですか。

(答) 小中学校についても、県教委が処分します。

(質) 市職員とか、そういうことですね。

(答) そうですね。市は保育所や幼稚園を所管しているでしょうし、施設等もお持ちであれば、入所者との事案がある可能性もあります。再発防止に関して、我々も精一杯取り組んでいるのですけれども、さらに良い案があれば、お知恵を拝借したいなという気持ちはございます。

(質) 具体的に申入れを行うという意向が、県教委の方に市長から直接来ているということですか。

(答) 来ております。

(質) それであれば、市長が訪問して申し入れるということですか。

(答) この場で具体的に申し上げるのは避けておきたいと思います。

以上、13時56分終了